

繁殖管理の基礎知識 ～1年1産への努力～

2011.4.11-13 市場研修会 おおいた肉用牛振興協議会

1. 繁殖適期

- ・初回発情は和牛では
平均10か月齢
- ・栄養条件がよく、発育のよい雌子牛ほど早い



※初回発情ではまだからだの骨組、特に骨盤の成熟が不十分なので交配はしない

※初交配の目安は、体高118～120cm、体重330～360kgに到達したとき、
和牛では13～14ヶ月齢

2. 発情徴候と発情周期

- ・運動場で乗り合いの様子を見て、発情を見つける場合が多い
- ・発情は16～26時間、平均24時間続く
- ・発情周期は約21日で、雌牛が授精されて受胎するまで繰り返される

※ウラ面図表参照

3. 授精の適期

- ・発情の中期から末期に授精するのが最も良い
- ・朝発情を発見したら、その日の午後か夕方に授精する
- ・午後発見したら、翌朝授精するのが原則

4. 妊娠の確認と妊娠期間

- ・発情中に授精してから、次の発情予定日に発情が無く、続いて1～2回発情がなければ妊娠したと考えて良い
- ・和牛の妊娠期間は約285日



※分娩予定日は、交配した月の数から3を引き、交配日の数に10を加えて求める

【例】

平成23年4月1日(授精)



平成24年1月11日(分娩予定)

平成24年1月25日(授精)



平成24年11月5日(分娩予定)

5. 1年1産への努力

①発情発見率の向上

- ・発情予定牛の観察回数を増やす
- ・繁殖記録を黒板に書き付ける
- ・色々な発情徴候の観察
- ・牛舎を明るくする

②適期授精の徹底

- ・1頭ごとのくせをつかむ
- ・授精師への連絡を早めにする

③適切な飼養管理

- ・分娩前後の飼養管理
- ・適度な運動と日光浴
- ・早期離乳

④病気の早期発見と治療

- ・授精後3ヶ月以内の妊娠診断
- ・変わった様子は獣医師へ

⑤事故発生の予防

- ・妊娠末期は単房へ
- ・危険な箇所の早期点検

⑥経営者意識の自覚

- ・発情見逃しの損
- ・牛飼いに情熱を
- ・愛情を牛に etc...

表 3-9 乳牛の発情の徴候と交配適期

交配期	はやい	可	適期	可	おそい	
	0	6	9	18	24	28
発情前期6~10時間	発情期			発情後期8~10時間		排卵
1. となりの牛に近よる。 2. 他の牛に乗駕する。 3. 外陰部は赤くはれ、湿っている。	1. 乗駕を許してたっている。 2. 大声でうなる。 3. 乗駕する。 4. 十字部をたたくと尾をあげる。 5. 後躯に手をふれてもきらわれない。 6. 座らないでたっている。 7. 透明な粘液が出る。 8. 瞳孔がひらく。 9. 人にすりよる。 10. 食欲が低下し乳量が減る。 11. 群からはなれて歩きまわる。			1. 後躯に手をふれるときらう。 2. 透明な粘液が出る。 3. 乗駕をきらう。		1. 排卵後10時間くらいまで受胎することがある。

注. 牛の発情持続時間(発情期)は、一般に平均21時間とされているが、わが国のホルスタイン種については平均18時間とする説も多いので、本表はこれによる。

(日本家畜人工授精師協会「家畜人工授精講習会テキスト改訂版」昭和58年による)

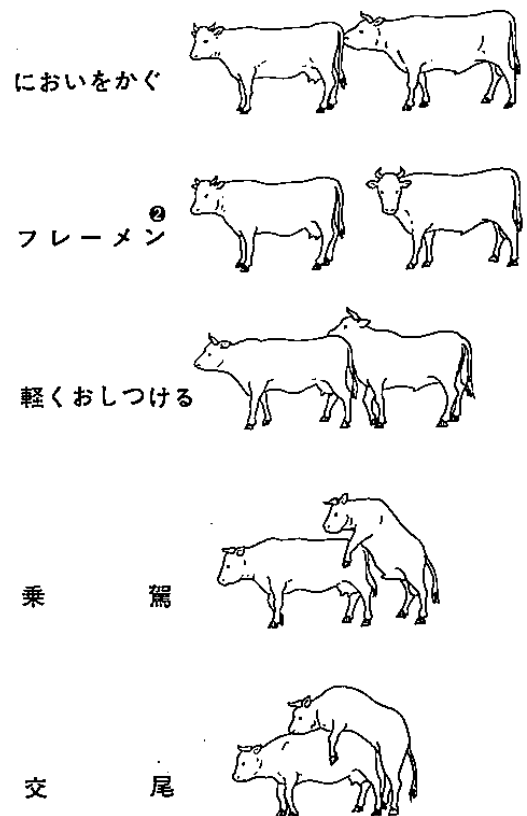


図 3-28 雌が発情したときの牛の性行動 (右側が雄)